# JBMS

# 静電複写機の仕様書様式

JBMS-08-2003

(2013 確認)

平成 15 年 1 月改正

社団法人　ビジネス機械・情報システム産業協会

# まえがき

近年の複写機のデジタル化・複合機化の急速な進展に伴い，その複写機本体の性能や機能も従来のそれとは大きく変わってきている。平成 11 年に改正した本仕様書様式では，いわゆるアナログ複写機の仕様を中心に記載した内容を，今回の改正では，デジタル複合機として，各種付加機能（プリンタ機能，FAX 機能，スキャナー機能，電子メール・インターネット FAX 機能）を附属書の形で（それぞれの仕様書付表付き）加えた。

この規格の一部が，技術的性格を持つ特許権，出願公開後の特許出願，実用新案権，又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。社団法人　日本事務機械工業会は，このような技術的性格を持つ特許権，出願公開後の特許出願，実用新案権，又は出願公開後の実用新案登録出願について，責任をもたない。

## 複写機・複合機部会技術分科会委員構成表

| | | |
|---|---|---|
| （分科会長） | 三　宅　信　行 | キヤノン株式会社 |
| （副分科会長） | 高　野　正　治 | 東芝テック株式会社 |
| （副分科会長） | 倉　恒　雅　仁 | コニカ株式会社 |
| | 望　月　英　雅 | コピア株式会社 |
| | 佐　藤　　浩 | 富士ゼロックス株式会社 |
| | 橋　本　康　弘 | ミノルタ株式会社 |
| | 堀　内　孝　郎 | シャープ株式会社 |
| | 鈴　木　範　男 | 松下電送システム株式会社 |
| | 長　谷　弘　彰 | 京セラミタ株式会社 |
| | 大　石　廣　人 | 株式会社　リコー |
| （事務局） | 伊　藤　　丘 | (社)ビジネス機械・情報システム産業協会 |
| （事務局） | 武　井　克　予 | (社)ビジネス機械・情報システム産業協会 |

## 標準化センターJBMS 推進小委員会委員構成表

| | | |
|---|---|---|
| （委員長） | 佐　藤　信　弘 | キヤノン株式会社 |
| | 高　野　正　治 | 東芝テック株式会社 |
| | 内　野　利　夫 | 株式会社　リコー |
| | 望　月　　陽 | 富士ゼロックス株式会社 |
| （事務局） | 小　林　繁　雄 | (社)ビジネス機械・情報システム産業協会 |

**規 格 番 号**：JBMS-08
**制定年月日**：昭和 62 年 3 月 1 日（原案：複写機部会技術分科会）
**改　　正**：平成 2 年 10 月 20 日 改正 2 平成 11 年 6 月 25 日　改正 3 平成 13 年 11 月 9 日
改正 4 平成 15 年 1 月 20 日
**原 案 作 成**：複写機・複合機部会技術分科会
**審　　議**：（社）ビジネス機械・情報システム産業協会　標準化センター（JBMS 推進小委員会）
**制　　定**：（社）ビジネス機械・情報システム産業協会　（標準化センター）
この規格についての意見又は質問は社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会標準化センターへお願い致します。
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 1-21-19　秀和第二虎ノ門ビル　　Tel 03－3503－9821

# ビジネス機械・情報システム産業協会規格

JBMS-8-2003
（2013　確認）

# 静 電 複 写 機 の 仕 様 書 様 式

Standard Form of Specification for Electrostatic Copying Machines

1. **適　用　範　囲**　この規格はJIS B 0117（事務機械の名称に関する用語）の分類2300（静電複写機）の仕様書様式（以下，仕様書様式という）及び仕様書記入要領について規定する。なお，本仕様書様式は，上記，静電複写機ベースの複合機(1)にも適用するため，主な拡張機能であるプリンタ・FAX・スキャナー機能・電子メール・インターネットFAX機能の仕様に関して，附属書１～４で規定する。

**注**(1)　複合機という言葉はJIS B 0117の中にはないが，今後，この規格の改正を行う。

2. **仕 様 書 様 式**　**付表１**の様式を添付するので，参考にすることが望ましい。

3. **仕様書記入要領**

**3.1 名　　称**　商品名及び形式番号を記入する。

**3.2 形　　式**　卓上型（デスクトップ），床上形（コンソール），可搬形（ポータブル）の別，さらに一体型，分離型の別を記入する。

**3.3 複 写 方 式**　間接静電方式においてデジタル方式，又はアナログ方式の区別を記入する。

**3.4 原稿台方式**　原稿台の移動式，又は固定式の別を記入する。なお，原稿台をもたずに原稿をそのまま，又は原稿キャリア（原稿搬送補助具）などで搬送する場合は，原稿移動式と記入する。

**3.5 カラー対応**　カラー対応である場合は，単色カラー，フルカラーなどを記入する。

**3.6 原稿読み取り方式**　デジタル方式の場合は，原稿読み取り方式及び原稿読み取りデバイスの種類を記入する。

**3.7 書き込み方式**　デジタル方式の場合は，潜像を感光体へ書き込みする方式を記入する。

**3.8 読み取り解像度**　デジタル方式の場合は，主走査方向，副走査方向それぞれの読み取り解像度を「dpi」又は「dpi（ﾄﾞｯﾄ数/25.4mm）」で記入する。擬似的に解像度を高めるような工夫が為されている場合には，相当解像度を記載しても構わない。

**3.9 書き込み解像度**　デジタル方式の場合は，主走査方向，副走査方向それぞれの書き込み解像度を「dpi」又は「dpi（ﾄﾞｯﾄ数/25.4mm）」で記入する。擬似的に解像度を高めるような工夫がなされている場合には，相当解像度を記載しても構わない。

**3.10 階調/表現色**　デジタル方式の場合は，1色当たりの表現できる階調段数を記入する。さらに最大表現色数を記入してもよい。

**3.11 感光体種類**　間接静電方式の場合だけ感光体の種類を記入する。

**3.12 原稿サイズ**　最大寸法をミリメートル（mm）又はJIS P 0138（紙加工仕上げ寸法）による

寸法呼び（番）で記入する。また，原稿の厚さに制限のあるもの，更に原稿台へ載せる最大質量などについて，その旨を記入することが望ましい。

**3.13 複写サイズ**　複写可能な最大及び最小の寸法をミリメートル（mm），又はJIS P 0138による寸法呼び（番）で記入する。なお，手差し給紙，自動給紙によって異なる場合は，その旨を付記する。

**3.14 画像欠け幅**　あるサイズの用紙に目一杯書き込まれた原稿を複写した場合に，記録できない範囲を画像欠け幅とし，その先端，後端及び左右端の記録不可能な幅寸法をミリメートル（mm）で記入する。

**3.15 ウオームアップタイム**　電源スイッチ投入後，複写可能の状態になるまでの時間（分または秒）を記入する。予熱している場合には，その旨を併記し，時間も記入する。

**3.16 ファーストコピータイム**　通常の使用状態（A4 等倍，標準とする送り方向）で，プリントボタンを押してから１枚目のコピー用紙が排出し終わるまでの最も早い条件での時間（秒）を記入する。ファーストコピータイムの表示において，複写機の基本構成もしくは原稿送り装置の付属やモードなどの条件によって異なる場合には，その旨を記入することが望ましい。

**3.17 連続複写速度**　通常の使用状態（A4 等倍，標準とする送り方向）で，複写を連続して行ない，１分間に複写できる枚数を枚／分で記入する。用紙サイズによって複写速度が異なる場合は，その旨を記入する。表示については，ISO 11159（情報技術－事務機器－複写機の仕様書様式）に準拠すること。カラー複写機は，カラーコピー時の枚数と白黒コピー時の枚数を併記する。

**3.18 複写倍率**　拡大，縮小，等倍の別を原稿寸法を１とした時の長さ比で表わし，小数点以下２桁まで記入する。等倍については誤差の範囲をパーセント（%）で表示する。誤差のパーセントは機差ばらつきを含んだ最大値とする。

**3.19 給紙方式/給紙容量**　自動給紙，手差し給紙の別及びカセット，デッキ，トレイなどの段数（本体に付く段数）を記入する。その際，カセット，デッキ，トレイごとに用紙の収容可能枚数を併記し，給紙段数が複数の場合には，各段ごとの収容可能枚数を記入する。また，ロール紙の場合は幅及び長さを記入する。

**3.20 複写用紙**　特殊な処理をほどこした複写用紙を使用する場合は，その旨を記入する。

また，通紙可能な紙の坪量を記載する。単位はg/ ㎡を推奨する。

**3.21 現像方式**　湿式現像，乾式現像の別及び現像剤について，１成分，２成分の別を記入する。

**3.22 複写濃度調整**　手動，自動の別を記入する。手動の場合には，無段階，ステップ調整などの方式を付記する。

**3.23 定着方式**　熱ローラ定着，フラッシュ定着，オーブン定着，圧力定着などの別を記入する。

**3.24 連続複写枚数**　最大連続複写可能枚数を記入する。

**3.25 読み取り光源**　原稿の読み取り光源の種類及び定格消費電力（W）を記入する。

**3.26 拡張機能**　ファックス，プリンター，スキャナー，ネットワークなどの拡張機能を搭載できる場合には，その機能を記入する。

**3.27 主な付加機能**　両面複写機能，自動カラー選択，画像処理，変倍機能，とじしろ機能，エディタ機能など，上記以外の付加機能がある場合には，その代表的な機能を列記する。

**3.28 メモリー容量**　標準で搭載されているメモリー容量及び搭載可能な最大のメモリ容量を記

載する。単位は MB または GB。

**例**　標準 256MB，最大 512MB，HDD 120GB

**3.29 電源**　交流の場合は電圧（V），周波数（Hz）及び電流（A）を記入する。
なお，50Hz と 60Hz を共用の場合はその旨を付記する。また，直流の場合は電圧（V）及び電流（A）を記入する。

**3.30 最大消費電力**　消費電力としては，実際使用時における最大消費電力（kW）を記入する。

**3.31 エネルギー消費効率**　省エネ法対象機種は，エネルギー消費効率を記載すること。
単位は（Wh/h）とし，整数で表示すること。

**3.32 大きさ**　本体の幅，奥行及び高さの寸法をセンチメートル（cm）又はミリメートル（mm）で，この順序に記入する。

**3.33 質量**　本体の質量（kg）を記入する。

**3.34 機械占有寸法**　最大カセット，トレイ及びコピー受けを取り付けたときの幅，奥行の最大寸法をセンチメートル（cm）又はミリメートル（mm）の単位で，この順序に記入する。
なお，原稿台移動式のものは，原稿台の最大移動時の寸法を含むものとする。自動原稿送り装置，ソータ，大容量給紙装置などの付属装置，オプションを取り付けた場合の機械占有寸法を，記入することが望ましい。

**3.35 備考**　３項１～33 以外の必要事項を記入する。

---

**関連規格**：JIS B 0117　事務機械の名称に関する用語
JIS B 0137　複写機用語
JIS P 0138　紙加工仕上寸法
JIS B 9527　ページプリンタの仕様書様式
ISO 11159　情報技術－事務機器－複写機の仕様書様式
JBMS-19　静電複写機性能試験方法

# 付表１（参考）静電複写機仕様書

年　月　日

| | |
|---|---|
| 名　　称 | |
| 形　　式 | |
| 複　写　方　式 | |
| 原　稿　台　方　式 | |
| カ　ラ　ー　対　応 | |
| 原稿読み取り方式 | 方式　　デバイスの種類 |
| 書　き　込　み　方　式 | |
| 読み取り解像度 | 主走査　　dpi　副走査　　dpi |
| 書き込み解像度 | 主走査　　dpi　副走査　　dpi |
| 階　調　/　表　現　色 | |
| 感　光　体　種　類 | |
| 原　稿　サ　イ　ズ | 最大 |
| 複　写　サ　イ　ズ | 最大<br>最小 |
| 画　像　欠　け　幅 | 先端　　mm　後端　　mm　右端　　mm　左端　　mm |
| ウォームアップタイム | |
| ファーストコピータイム | （秒） |
| 連　続　複　写　速　度 | （枚／分） |
| 複　写　倍　率 | |
| 給紙方式/給紙容量 | |
| 複　写　用　紙 | |
| 現　像　方　式 | |
| 複　写　濃　度　調　整 | |

## 付表１（続き）

| | |
|---|---|
| 定　着　方　式 | |
| 連続複写枚数 | （受け容量は記載しない） |
| 読み取り光源 | (W) |
| 拡　張　機　能 | |
| 主な付加機能 | |
| メ　モ　リ　容　量 | |
| 電　　源 | (V)　　(A)　　(Hz) |
| 最大消費電力 | (kW) |
| エネルギー消費効率 | (Wh/h) |
| 大　き　さ | 幅　　奥行　　高さ　　（単位：　　） |
| 質　　量 | (kg) |
| 機械占有寸法 | 幅　　奥行　　（単位：　　） |
| 備　　考 | |

# 附属書１（規定）プリンタ機能の仕様書様式

1. **適用範囲**　静電複写機ベースの複合機の主な拡張機能であるプリンタ機能の仕様（以下，仕様書様式という）及び仕様書記入要領について規定する。

2. **仕様書様式**　**附属書１付表１**を添付するので参考にすることが望ましい。

3. **仕様書記入要領**

3.1 **形式**　内蔵又は外部コントローラの違いを記入する

3.2 **連続プリント**速度　A4 用紙サイズ連続印刷中の 2 ページ目以降の印字において，一定時間内に出力される印刷物のページ数の最大又は最速値を枚／分で表記する。

3.3 解像度　主走査方向，副走査方向それぞれの書き込み解像度を「dpi」又は「dpi（ﾄﾞｯﾄ数/25.4mm)」で記入する。擬似的に解像度を高めるような工夫が為されている場合には，相当解像度を記載しても構わない。

**例**　600dpi x 600dpi　（例）2400dpi 相当 x 600dpi

3.4 **ページ記述言語**　印刷内容を記述したり，プリントの機械的動作を制御するもので，その言語の名称を記入する。

3.5 対応プロトコル　ネットワーク上のパソコンと周辺機器とのデータ送受信を行うために必要な通信規約のことで，その名称を記入する。

**例**　TCP／IP，IPX／SPX，EtherTalk，NetBEUI，IPP

3.6 **対応** OS　対応しているパソコンの OS を記入する。

**例**　Windows95／98，Wiondows2000，Windows NT

3.7 メモリー容量　プリンタコントローラに標準で搭載されているメモリー容量及び搭載可能な最大のメモリ容量を記載する。単位は MB 又は GB。

**例**　標準 256MB，最大 512MB，HDD 120GB

3.8 内蔵フォント　プリンタコントローラに搭載されているフォントの名称や書体数を記載する。オプションの場合はその旨記載する。

**例**　日本語：平成明朝体 TMW3，平成角ゴシック体 W5
　　欧文　：136 書体

3.9 エミュレーション　他のプリンタとソフトインタフェースの互換性を持たせることをエミュレーションと呼び，適用となるプリンタの名称，あるいはプリンタ制御コマンド体系の名称を記載する。オプションの場合は，その旨記載する。

**例**　PC-PR201H，ESC/P，HP-GL2

3.10 インタフェース　ホストコンピュータとプリンタ間の信号伝送路とそれに付随する制御回路のことで，その通信を行う仕組み及びその規格名称を記載する。
オプションの場合はその旨記載する。

**例**　SCSI，RS232C，10Base－T，100Base-T，USB，IEEE 1394

3.11 **電源／最大消費電力**　プリンタコントローラが外付けタイプの場合にのみ記載する。

3.12 **大きさ／質量**　プリンタコントローラが外付けタイプの場合にのみ記載する。

**3.13 備考**　３項１～12 以外の必要事項を記入する。

# 附属書１付表１（参考）プリンタ機能の仕様書

年　月　日

| | |
|---|---|
| 形式 | |
| 連続プリント速度 | |
| 解像度 | 主走査　dpi　副走査　dpi |
| ページ記述言語 | |
| 対応プロトコル | |
| 対応ＯＳ | |
| メモリ容量 | |
| 内蔵フォント | |
| エミュレーション | |
| インタフェース | |
| 電源/最大消費電力 | |
| 大きさ/質量 | |
| 備考 | |

# 附属書２（規定）ＦＡＸ機能の仕様書様式

1. **適用範囲**　静電複写機ベースの複合機の主な拡張機能であるＦＡＸ機能の仕様（以下，仕様書様式という）及び仕様書記入要領について規定する。

2. **仕様書様式**　**附属書２付表１**を添付するので参考にすることが望ましい。

3. **仕様書記入要領**

3.1 **適用回線**　接続可能回線種類と収容可能回線数を記入する。

**例**　一般加入電話回線(2 回線)，ISDN，ファクシミリ通信網

3.2 **走査線密度**　主走査方向の解像度及び副走査方向の解像度を必要に応じて記す。解像度は「lines/mm」、「dpi」又は「dpi (ドット数/25.4mm)」で記入する。

**例**　8 × 3.85 lines/mm、200 × 200 dpi

3.3 **通信速度**　伝送規格ごとに最大通信速度を記入する。

**例**　G3：14.4kbps，G4：64kbps，スーパーG3：33.6kbps

3.4 **符号化方式**　通信で使用可能なデータ圧縮の方式をすべて記入する。

**例**　MMR，JBIG，JPEG(CIELAB)，JPEG(sYCC)

3.5 **通信モード**　交信可能なプロトコルをすべて記入する。

**例**　G3，G4，スーパーG3，ECM，独自モード

3.6 **送信原稿サイズ**　定型の最大サイズを記入する。

ただし，長尺原稿が送信可能な場合は，最大長を記入する。

**例**　A3（297 × 420mm），長さ 500mm

3.7 **最大読取サイズ**　原稿サイズごとに有効読取領域を記入する。

**例**　有効読取領域：B4（254 × 360mm），A4（208 × 295mm）

3.8 **記録紙サイズ**　定型の最大サイズ及び最小サイズを記入する。

**例**　A4，　B4，　A3

3.9 **電送時間**　使用する原稿の種類と通信モードを明らかにし，最高速での画像送信部分の時間を記載する。

**例**　約 3 秒（A4 自社原稿，8 × 3.85 lines/mm，独自モード時）

3.10 **メモリ容量**　標準搭載メモリの容量と増設時の最大メモリの容量を記入する。

**例**　標準 4MB，最大 8MB

3.11 カラー対応　カラーＦＡＸ通信機能がある場合，その旨記入する。

**例**　あり，なし

3.12 **備考**　　３項１～11 以外の必要事項を記入する。

# 附属書２付表１（参考）ＦＡＸ機能の仕様書

年　　月　　日

| | |
|---|---|
| 適用回線 | |
| 走査線密度 | |
| 通信速度 | kbps |
| 符号化方式 | |
| 通信モード | |
| 送信原稿サイズ | |
| 最大読取りサイズ | |
| 記録紙サイズ | |
| 電送時間 | |
| メモリ容量 | |
| カラー対応 | |
| 備考 | |

# 附属書３（規定）スキャナー機能の仕様書様式

1. **適用範囲**　静電複写機ベースの複合機の主な拡張機能であるスキャナー機能の仕様（以下，仕様書様式という）及び仕様書記入要領について規定する。

2. **仕様書様式**　**附属書３付表１**を添付するので参考にすることが望ましい。

3. **仕様書記入要領**

3.1 **形式**　カラースキャナー，白黒スキャナーの別を記入する。

3.2 **読取解像度**　主走査方向の解像度及び副走査方向の解像度を必要に応じて記す。解像度は「dpi」又は「dpi（ドット数/25.4mm)」で記入する。

3.3 **原稿読取り速度**　複写時の原稿読み取り速度と異なる場合は，必要に応じ記載してもよい。

3.4 **読取り階調**　本体の原稿読み取り階調と異なる場合は必要に応じ記載してもよい。

3.5 **インターフェース**　複写機本体への画像出力以外の外部画像出力機能がある場合には，必要に応じてインターフェース（物理層）規格を記す。

　**例**　SCSI，RS232C，10Base－T，100Base-T，USB，IEEE1394 等

3.6 **対応プロトコル**　外部画像出力機能のあるものは，伝送プロトコルを記す。

　**例**　TCP/IP，SMTP，POP3，HTTP その他

3.7 **出力フォーマット**　外部画像出力の転送フォーマットを記す。また，圧縮有りの場合は，圧縮方式を記す。

　**例**　転送フォーマット TIFF，EPS，PICT，DCS 等

　　圧縮方式　　MH，MR，MMR，JBIG，JPEG その他

3.8 **ドライバー**　TWAIN 対応等，デバイスドライバー規格を記す。

3.9 **備考**　　３項１から８以外の必要事項を記入する

# 附属書３付表１（参考）スキャナー機能の仕様書

年　　月　　日

| | |
|---|---|
| 形式 | |
| 読み取り解像度 | 主走査　　dpi　　副走査　　dpi |
| 原稿読み取り速度 | |
| 読み取り階調 | |
| インタフェース | |
| 対応プロトコル | |
| 出力フォーマット | |
| ドライバ | |
| 備考 | |

# 附属書４（規定）電子メール・インターネット機能の仕様書様式

1. **適用範囲**　静電複写機ベースの複合機の主な拡張機能である電子メール／インターネットＦＡＸ機能の仕様（以下，仕様書様式という）及び仕様書記入要領について規定する。

2. **仕様書様式**　**附属書４付表１**を添付するので参考にすることが望ましい。

3. **仕様書記入要領**

3.1 **通信プロトコル**　接続に使用されるプロトコルを記入する。

　**例**　SMTP，POP3

3.2 通信モード　インターネット FAX で対応する通信モードを記入する。

　**例**　Simple モード，Full モード

3.3 **解像度**　通信において提供する主走査, 副走査の解像度を記入する。解像度は「dpi」又は「dpi (ドット数/25.4mm)」で記入する。

　**例**　200 × 200 dpi

3.4 **送信ファイル形式**　送信時のファイル形式を記入する。必要に応じてデータ圧縮方式も併記する。

　**例**　TIFF（MH, MR, MMR），JPEG，PDF

3.5 **送信原稿サイズ**　定型の最大サイズを記入する。

　**例**　A3（297 × 420ｍｍ）

3.6 **備考**　　３項１～５以外の必要事項を記入する。

# 附属書４付表１（参考）電子メール・インターネット機能の仕様書

年　　月　　日

| | |
|---|---|
| 通信プロトコル | |
| 通信モード | |
| 解像度 | 主走査　　dpi　　副走査　　dpi |
| 送信ファイル形式 | |
| 送信原稿サイズ | |
| 備考 | |

# 静 電 複 写 機　仕 様 書 様 式 解 説

静電複写機仕様書様式は，1974 年に日本事務機械工業会規格（JBMS-8-1974）として制定された。

しかし，静電複写機は技術革新により，初期の直接静電方式から間接静電方式が主流となり，特にカラー技術，デジタル技術などの分野でも機能・性能も著しく向上した。

従って，（社）日本事務機械工業会複写機部会技術分科会では，仕様の項目，記入内容などについて見直しを行ない，カラー複写機，デジタル複写機を含め，静電複写機仕様書様式の改正を行なった。

静電複写機においては，その複写方式，機能，カラー技術，デジタル技術なども日々新たなものが開発されており，その総ての項目を網羅した仕様書様式を作成することは困難である。

そこで，現在市場に普及している間接静電複写機の仕様を基準とし，将来開発されるものにも適用し得るように，複写機の基本的項目を取り上げ，この仕様書によって，機械の性能・機能の概要を把握可能なものを作成することを主眼とした。

尚，複合機についてもこの仕様書様式を適用できる。

さらに，次の内容の改正を 2002 年 12 月に行った。

JBMS08，JBMS19，JBMS33 を統合した形で JIS X 6910 原案を作成することとなり，その過程で，デジタル複合機としての付加機能のうち，“FAX 機能”の内容を見直した。また，新たに最新の機能である“電子メール・インターネット FAX 機能”を追加した。

**1. 測定基準となる環境条件**　測定基準は，JBMS-19「静電複写機性能試験方法」に準じる。

**2. 形　式**　一体型については，従来の複写機の形態を示し，分離型については，読み取り部と書き込み部を物理的に離すことができるものを示し，それについて記入する。

**3. 複写方式**　現在，市場で主流となっている間接静電方式に規定することとし，デジタル方式，アナログ方式の違いを記入する。

**4. カラー対応**　単色カラーとは，自由な色の組み合わせができないものを言い，フルカラーとは基本原色であるイエロー，マジエンタ，シアン及びブラックの組み合わせで，中間調を含む複数の色が表現できるものを言う。それらの別を記入する。それらに伴い，表現できる色数については，別途記載項目を設ける。

**5. 原稿読み取り方式**　（デジタル特有）　読み取り方式には間接方式と直接方式があり，間接方式の例としては，ミラー走査型などの縮小光学系があり，直接方式の例としては FAX などのようなレンズアレーを用いた密着型の等倍光学系がある。

読み取りデバイスについては，CCD やその他の方式などの種類について記入する。

**6. 書き込み方式**　（デジタル特有）　感光体への書き込みの方式としては，レーザー方式，LED アレーを用いた方式などがあり，その方式を記入する。

**7. 読み取り解像度**　（デジタル特有）　JIS B 9527(1998)ページプリンタの仕様書様式に規定している解像度の記載方法に準じて，主走査方向，副走査方向のドット密度(ドット数/25.4mm)を単位:dpi で記載する。

a）表記例:主走査 600dpi x 副走査 600dpi

また，補間処理機能をもつ場合には，「相当」をつけて表記しなければならない。

b）擬似的に解像度を高めた場合の表記例:主走査 1200dpi 相当 x 副走査 1200dpi 相当

なお，補間処理機能を持つ場合には，本来の解像度と併記することを推奨する。

**参考**　解像度を切り換えられる場合には，その各解像度を記載する。

**8. 書き込み解像度**　（デジタル特有）　JIS B 9527(ページプリンタの仕様書様式)に規定している解像度の記載方法に準じて，主走査方向，副走査方向（水平方向及び垂直方向）のドット密度（ドット数/25.4mm)を単位:dpi で記載する。

スムージングのように，擬似的に解像度を高めて，ジャギー（ギザギザ）をなめらかにする処理方法があるが，それらのように解像度を高める機能をもつ場合には，下記のように並記しても構わない。

a）dpi を単位として表記する場合。

**例**　主走査 600dpi x 副走査 600dpi

b）擬似的に解像度を高めて表現する場合には，「相当」をつける。

**例**　主走査 1200dpi 相当 x 副走査 1200dpi 相当

**参考**　解像度を切り換えられる場合には，その各解像度を記載する。

**9. 階調/表現色**　単色カラーは色の組み合わせができない場合を言い，その色数又はその色を記入する。

フルカラーは，一般的にイエロー，マゼンタ，シアン及びブラックの組み合わせで表現される。その 1 色当たりの表現できる階調段数を記入する。もしくは基本色を使用してその組み合わせを用いることで表現できる，最大表現色数を記入する。

階調数とは，同一色で表現可能な，異なった濃度の数。階調情報を N ビットとすると，階調数は 2 の N 乗階調となる。また，そのまま N ビット階調と表現しても良い。例えば各色 8 ビットであれば，8 ビット階調または $2^8$＝256 階調となる。表現可能な色の数とは，連続階調でシアン，マゼンタ，イエローの原色中 3 色の各色が，1 画素単位あたり 8 ビットの情報量で濃度を制御する場合は，例えば $2^{24}$－1=16,777,215（色）の表現が各画素ごとに可能となる。

**10. 画像欠け幅**（余白による画像の欠損）　メーカー推奨サイズの原稿の端部まで目一杯書き込まれた原稿を用いて複写し，物理的に記録できない領域範囲を画像欠け幅とし，例えばレジストレーション＝0 と仮定した場合の画像欠損を a　mm，レジストレーション精度を±b　mm とした場合，「a±b mm」または「(a＋b) mm 以下」「最大(a＋b) mm」等で表示されるものとする。

**11. 複写原稿及び複写サイズの寸法**　寸法を寸法呼び（番）であらわす場合は，JIS P 0138 の内容に準ずるものとし，例えば，A4，B4 などのように記入する。はがきサイズ，名刺サイズ等 JIS P 0138 に記載のないサイズについては，大きさを示す寸法を注記すること。

**12. 連続複写速度**　通常の使用状態（A4 等倍，標準とする送り方向）で複写を連続して行い，１分間に複写できる枚数を枚／分で記入する。

複写サイズによって複写速度の異なる場合は，A3，B4，A4，B5 のサイズについて，その枚数を記入する。又，最大複写サイズが A3 を超える場合は，そのサイズでの複写速度が A3 サイズの複写速度と異なる場合は，そのサイズの複写枚数を記入する。さらに縮小・拡大機能その他の付加機能を使用することにより複写速度がなる場合は，それぞれの機能で一番遅い複写枚数を記入する。

複写枚数は，

a）10 cpm 未満は小数点第 2 位を四捨五入し，有効数字 2 桁で表示　　○．○

b）10 cpm 以上 100 cpm 未満は以下のいずれかで表示

1）小数点第1位を四捨五入し，有効数字2桁で表示　○○

2）小数点第2位を四捨五入し，有効数字3桁で表示　○○．○

c）100 cpm以上は小数点第1位を四捨五入し，有効数字3桁で表示　○○○

で表示する。

測定にあたっては，連続11枚をコピーし，1枚目の排紙完了時から11枚目が排紙完了するまでの時間を測定（A秒を得る）し，下記により1分間の複写枚数に換算する。

60÷(A／10)＝1分間の複写枚数

コピー濃度自動調整，原稿サイズ検知，自動両面コピー等の付加機能を使用することで，複写速度が異なる場合にはその旨を付記し，その数値も合わせて記入することが望ましい。

**13. 給紙容量**　用紙の収容可能枚数を測定する場合は，メーカの推薦紙を用いる。

**14. 最大消費電力**　最大消費電力は突入電力を除外した値とする。

**15. エネルギー消費効率**　取扱説明書及びカタログに記載する。(省エネ法による規定)

**16. 大きさ**　本体の寸法とは，カセット，キーカウンタ，排紙トレイ，原稿置き台のほか，壁等の隙間確保のために付ける突起物を除外したものとする。なお，寸法測定時に除外した付属品，装置等の名称も合わせて記入表示することが望ましい。

**17. 質　量**　本体の質量とは，カセット，排紙トレイ，原稿置き台，現像剤，トナー，ヒートロール用オイル等を除外したものとする。なお，質量測定時に除外したものの名称を合わせて記入表示することが望ましい。

**18. 機械占有寸法**　オプションを取り付けた場合の機械占有寸法を，図あるいは，絵等を使ってわかりやすく表示することが望ましい。

修理やオペレーションでさらに占有面積が必要な場合には，その占有寸法を図あるいは，絵等を使ってわかりやすく表示しても良い。

**静電複写機の仕様書様式**

編集兼
発行人　岩　井　篤

発行所　社団法人　日本事務機械工業会
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 1 丁目 21 番 19 号　秀和第二虎ノ門ビル
電話　東京（03）3503－9821（代表）